

たくさんの出会い

国際文化学科 2年 若本真子

私は約4か月のあいだ、アメリカにあるノースウエスト・ミズーリ州立大学に留学してきました。私は高校生のころからアメリカに留学したいという気持ちがあったので、留学に行くことを迷うことはありませんでした。アメリカに留学するにあたり、パスポートの取得やビザの取得が必要だったり、その他の日用品もそろえたりと準備が大変でした。また、映画や音楽で英語を聞き慣れるように努力しました。アメリカ留学を楽しみにしていたものの、出発日が近づくにつれて、とても不安な気持ちでした。私は、出発するまえにフェイスブックでアメリカ人の女の子からルームメイトだということを知らされていました。そのため同じ部屋で生活するのに言いたいことが英語にできなかつたらどうしようという不安ばかりでした。

アメリカに到着してから数日間は観光気分で、まわりの建物やみんなが英語を話す様子にただただ感動しました。最初のうちは、英語が聞き取れず、言いたいことも伝えられずに苦労することが多くありました。しかし、毎日の授業やイベント等を通して少しずつ英語に慣れ、だんだん自分の言いたいことを伝えられるようになりました。授業は、もちろんすべて英語で進められていきます。アメリカでは発言することが重視されているので、積極的に発言することを心がけました。また、日本の大学とは違い、毎日たくさんの宿題や、単語テストがありました。このため毎日勉強する習慣がつき、英語力を少しでも伸ばすことができました。また、授業がおわったあとには毎日のようにイベントが開催されていました。私は外国人とコミュニケーションをとれるチャンスだと思い、多くのイベントに参加しました。しかし、聞き取れなかつたらどうしようという不安があり、なかなか自分から声をかけることができず、日本人同士で固まっていることが多かったです。そんな私たちに対しても明るくフレンドリーに話しかけてくれる人もいました。誰かに話しかけてもらうのを待つことしかできず悔しかったです。

つぎに、いくつかの項目にわけて書きたいと思います。

・ルームメイト

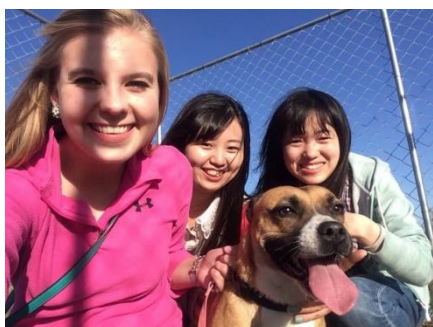
今年は NUIS の学生は2つの寮に別れて過ごしました。私はサウスコンプレックスという、いままでの先輩が過ごした寮とは違う寮でした。この寮はアメリカ人の学生が多かったように思います。私のルームメイトは、Allison というアメリカ人の女の子でした。彼女とは、日本にいるときからフェイスブックを通してメッセージのやりとりをしていました。彼女は、部屋にいるときはパソコンをいじっていることが多く、ゆっくりと会話する時間をあまりとることができませんでした。しかし、いつも私が聞き取りやすいようにゆっくりと話してくれたり、私が理解できない単語があると簡単な単語で言い換えてくれました。

他にも授業の課題に快く協力してくれたりと、とても優しく接してくれました。しかし、彼女がときどきボーイフレンドを部屋に連れてきていたので、部屋にいにくかったこともありました。



・カンバセーションパートナー

私のカンバセーションパートナーは、**Madeline** というアメリカ人の女の子でした。彼女とは、週2回1時間ずつ決められたトピックについて話していました。私にとって彼女と話す時間が一番長かったように感じます。最初のうちは話が弾まずに終わっていましたが、慣れてくると笑いも生まれ、気がつくとも1時間たっているという感じで楽しかったです。週末の出来事、家族、趣味、好きなスポーツ、好きな映画や音楽等について話しました。他にも一緒に折り紙をしたり、箸の使い方や漢字を教えました。しかし、日本のことを上手く説明できなかったことが悔しかったです。また、彼女は動物が好きだったので一緒にアニマルシェルターに行き、犬や猫と触れあったり、彼女のアパートで夕飯を食べて映画を見たこともありました。彼女とは、今でもメッセージのやりとりをしているので続けていきたいです。アメリカでは伝えられなかった日本のいいところを、たくさん話せたらいいなと思っています。



・FIS Family

私の FIS Family は、**Terra** という女性でした。旦那さんと **Cora**、**Austin** という2人の子供の四大家族でした。とても仲の良い家族で、いつも優しくしてくれました。夕飯を作って

家に招待してもらったり、レストランに食べに行ったり、Halloween のイベントに行ったりと楽しく過ごすことができました。折り紙で作ったコマをあげたら Cora が喜んでくれたのが嬉しかったです。しかし、通常であれば FIS Family のもとで Thanks giving を過ごすのですが、事情があり彼らとは過ごすことができませんでした。

そのため、私は Mrs. Hardee の家で Thanks giving を過ごしました。この期間は学校の授業もなく、寮も閉まるので、私たちは FIS Family の家で 6 日間過ごすことになっていました。私の場合は、予定していた家ではなかったので戸惑いましたが、彼女は私たちの先生であり毎日学校で会っていたので安心しました。1 日目は夕飯にスパゲティミートソースとサラダを一緒に作りました。アメリカの家庭では量が多く食べきれないというイメージでしたが、大皿に盛られたものから自分の好きな量だけ取りわけて食べる形式だったので安心しました。夕飯のあとには、一緒に Only yesterday (思い出ぼろぼろ) と Whisper of the heart (耳をすませば) を見たのが印象に残っています。これらの映画には字幕がついていなかったため、難しい表現があると Mrs. Hardee の旦那さんが解説してくれました。ジブリの映画が好きな家だったので、ジブリの話もできて楽しかったです。2 日目は Mrs. Hardee と旦那さんは仕事だったので自分たちで朝食を用意し、食べました。冷蔵庫のなかにあるものや、食器などを自由に使ってよいと言われました。日本では人の家のキッチンに立つことは考えられませんが、アメリカでは当然のことのようです。3 日目は旦那さんのお母さんの家で Thanks giving の料理を食べました。親戚が全員集まっているという感じで、とても大勢の人がいました。ターキーはもちろん、他にもたくさんの種類のおかずやデザートを用意してくれました。ここでも自分の好きなものを取る形式でした。初めて食べるものばかりでしたが、とてもおいしかったです。そのあとは家の中を案内してもらいました。アメリカの家には来客用の部屋がいくつかあり、日本とは異なった点だと思いました。4 日目はショッピングに行きました。そこでは私は家族や友達のお土産を買いました。まだ 11 月の終り頃でしたが、クリスマスグッズがたくさん売っていて驚きました。5 日目はクリスマスツリーの飾りつけと、玄関のライトアップをしました。私の身長よりも高いクリスマスツリーが出てきたので驚きました。また、アメリカでは玄関をライトアップしている家が多く、とてもきれいでした。そして昼食にはラザニアを一緒に作りました。とても簡単においしく作れたので日本でも作りたいです。そして最終日の 6 日目は、日曜日だったので教会に行きました。アメリカでは毎週日曜日に教会に行く習慣があるそうです。帰る直前にピアノを弾くことになり、うまく弾けなかったのが心残りです。なにか自信のもてる特技があると、このような状況で困らないだろうと思いました。この 6 日間で Mrs. Hardee のお孫さんも一緒に過ごす時間が長く、かわいらしくて癒されました。日本のおもちゃで楽しそうに遊ぶ姿がとても印象に残っています。日本のおもちゃは小さい子でなくても楽しめると思うので、ぜひ持って行ってほしいです。

私にとって、この Thanks giving がアメリカ留学の中の一番の思い出です。最初は不安もありましたが、まわりの人たちはいつでも親切で、いろいろなところに連れて行ってもら

ったり、一緒に料理をしたりと楽しい毎日を過ごすことができました。寮では経験できないことを経験できた、すばらしい6日間になりました。



・その他

学校ではフットボールやバレーボール、バスケットボールの試合が行われていたので応援に行きました。とくにフットボールは強いチームだったので観客の応援や、チアリーダーのパフォーマンス、バンドの演奏は日本とは比べものにならないくらい素晴らしいものでした。

授業がない土曜日や日曜日は大学の近くにあるウォールマートというスーパーマーケットへよく行きました。大学からウォールマートまでシャトルバスが出ていますが、ほとんど時間通りに来ないので歩いて行くことが多かったです。歩いて30分くらいだったので、運動不足だった私にはちょうどよかったです。寮のキッチンで日本食を作って食べるのがあったので、食材を買ったり、お菓子や日用品を買っていました。

食事は大学にある食堂を利用していました。ここはビュッフェスタイルでした。やはり食堂のメニューに飽きたり、日本食が恋しくなることがありました。日本から持ってきた味噌汁をのんだり、大学の近くにあるレストランに行くことも多かったです。日本食が食べたくなると思うので、留学を考えている人は味噌汁やパックご飯、カップ麺などを持っていくことをおすすめします。

ここに書いたことだけでなく、アメリカではたくさんのことを学び、経験することができました。最初の1か月くらいは、なかなか英語が頭に浮かばずに苦勞しました。しかし帰国するころには、最初の様子からでは考えられないくらい英語で話すことが楽しく感じるようになっていました。さらにTOEICのスコアは100点以上あげることができました。この4か月のあいだで英語力を伸ばすことができたと感じています。そして、この留学生活には感謝の気持ちでいっぱいです。アメリカで出会い親切にしてくれた人たちだけでなく、一緒に生活したNUISのメンバー、両親にたくさん助けられました。ありがとうございました。またアメリカに行きたいと思えるくらい、とても充実した毎日を送ることができました。後輩たちには、ぜひアメリカに留学してほしいです。

